

ワンポイントガイド

【秋川と秋川氾濫】



多摩川の支流の中でも最大といわれる秋川。あきる野市から檜原村に及ぶ全長約 20km ほどを「秋川溪谷」と呼ぶ。

台風 19 号の影響により2019年(令和元年)10月12日に東京サマーランド近くの山田橋付近で氾濫。

普段の秋川は子供が遊べるくらいの浅さで穏やかな川だが、この氾濫により多くの住宅に浸水被害が発生。

【高月町・高月町の田園】

広大な水田地帯が広がり、東京都内最大規模と言われる水田地帯で、「八王子八十八景」にも選ばれている。

この辺りは戦国時代に「滝山合戦」の舞台となった。

樹木と田園との取り合わせが、素晴らしい景観を見せてくれるため、その風景の美しさを堪能できる。また、良質な水環境に恵まれた高月町の田園は、八王子の米どころにもなっている。見どころには高月ツリーがある。(代表的なお米は「キヌヒカリ」)



【多摩川トライアングル】



「多摩川」と、その支流である「秋川」が合流する地点の通称。NHK 総合「ダーウィンが来た！」NHKBS プレミアム「ワイルドライフ」でとりあげられたことで、一気に注目度が高まった。かつては、見晴らしの良い流木、狩りのしやすい河原、安全な竹やぶといった多彩な環境があるため、オオタカをはじめとした鳥たちやニホンイタチなど多くの生物が集まっていた。しかしながら台風 19 号の影響で河川敷の草や木が流されて環境が激変してしまった。

【都立滝山公園・滝山城跡】

戦国中期に建てられた滝山城の跡地と、その周辺の丘から成る八王子の公園。国史跡に指定されている滝山城跡は全国でも有数の中世城郭跡といわれる。

2017年(平成29年)4月6日に「続日本100名城」に選定され、桜とツツジの名所ともいわれる。

【滝山城】

1521年(永正18年)に築城された滝山城は、2021年(令和3年)に築城500年を迎えた。



大石定重によって築かれ、その後、大石氏の養子として入城した北条氏照が八王子城に移転するまで、関東屈指の城郭としてその威容を誇る。

最大の特長は、加住丘陵の複雑な地形や多摩川の浸食によって形成された急峻な断崖を利用して築かれた天然の要塞。1951年(昭和26年)に国指定史跡に指定される。

【北条氏照】

小田原に本拠を置く戦国大名北条氏3代目、氏康の次男として生まれ、子供のころに、多摩・入間・高麗に勢力を持っていた大石氏の養子となり「大石源三氏照」とも名乗り、滝山城に入る。

1582年(天正10年)過ぎごろには武蔵国八王子城を大改修して滝山城から移り、その後の豊臣秀吉による北条氏攻めに対抗する。1590年(天正18年)の小田原合戦の敗北により、兄氏政とともに自刃した。



【道の駅八王子滝山】



道の駅八王子滝山は東京初の道の駅であり、『東京唯一』の道の駅。八王子で栽培された野菜や果物、畜産物などたくさんの東京の恵みが集まる。地元の新鮮な農産物などを販売していたり、地元食材を活かした昔ながらの惣菜が購入できる。

その他、八王子の牛乳を使ったソフトクリームや四季折々の地元食材を使ったジェラートも楽しめる。

【都立小宮公園】

都立小宮公園は八王子市の中心街から真北へ約1.5km、加住丘陵の小高い緑の中。

標高約150mの丘陵地加住丘陵にコナラ、クヌギを主とした公園。その木々の間には、枕木を利用した木道が通り、散策時に足の裏からつたわる感覚も楽しめる。公園の南東側には弁天池と呼ばれる池があり、池に突き出た出島には大谷弁天様が祀られている。



【八王子・養蚕・織物】



(八王子市郷土資料館提供)
1964年の八王子駅前の様子

北条氏照(ほうじょう うじてる)は深沢山に城を築き、その城の守護神として牛頭天王の8人の王子である「八王子権現」を祀り、その城を「八王子城」と名付けた。この城の名前が「八王子」の由来。

江戸時代には宿場町(八王子宿)として栄えた。八王子は「桑の都」と呼ばれ、古くから養蚕と織物が盛んだった。八王子織物」は、滝山城下の市で取り引きされたころが始まりといわれ、江戸時代には、繭や生糸、織物などが集まるようになった。

今でも八王子は国内有数のネクタイの産地。